「学びの泉」開発・実践のための7原色

令和3年 6月12日・6月15日・7月28日

学校法人安城学園 学園長
寺 部　曉

はじめに

スケジュール

◆ 令和3年度まで

- 試行的な開発・実践
- 準備期間、基盤形成期

令和3年
（2021年）

令和4年
（2022年）

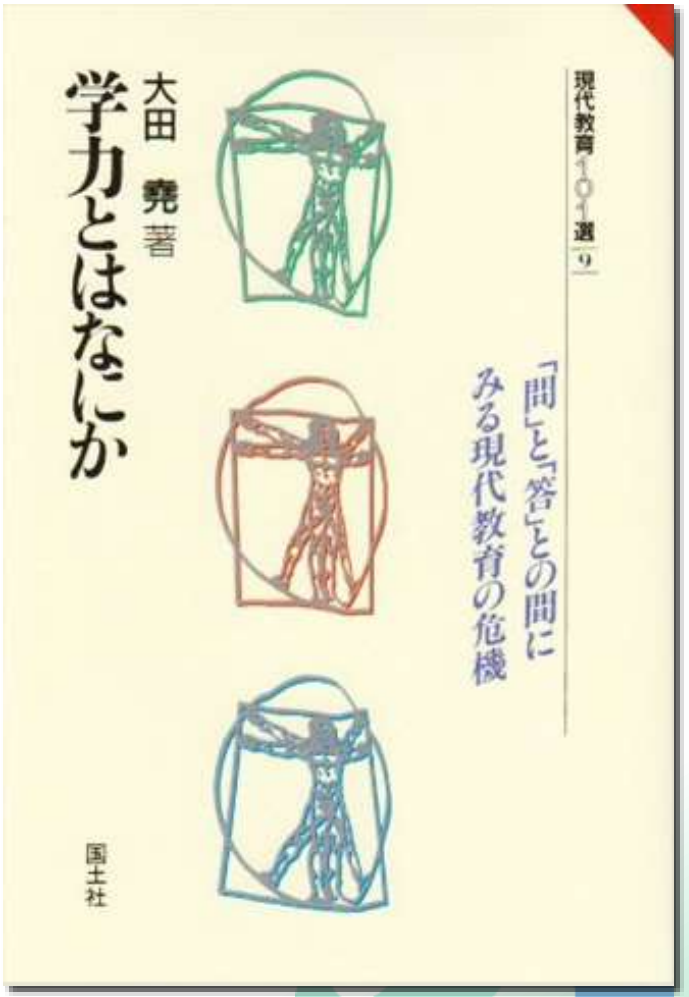
◆ 令和4年度から

- 本格的な開発・実践

学力の剝落現象について

学力の剝落現象について

- 大田 堯 著『学力とはなにか』
- 国土社、1969年 国土新書
- 大田 堯 氏
  - 日本の教育学者
  - 東京大学名誉教授
  - 都留文科大学名誉教授・元学長



学力の剥落現象について

◆算数について

- 計算そのものは簡単であっても、そこから思考を組みなおす必要のある問題になると三〇％台のものしか答えられなくなる。
- 「人口一〇〇〇〇人の町がある。一年間二三％づつ人口が増すとし、二年後の人口を求めよ」という問題は、％でひっかかって、一二％の正答率である。
- 一度学んだが忘れる度合の大きい問題は、比較的原理的ものの剥落が目立つ。

学力の剝落現象について

◆国語について

- 漢字の読みもやや抽象的なものになると、六〇%台に落ちる。
- 与えられた語句を結びつけて文章に組み立てるのも、三年程度のものでも、六〇%の正答率である。
- 文を構成し、日常的な自分の身のまわりを表現する力が逆に低下するように思われる。

学力の剥落現象について

◆理科について

- 経験的な観測だけでは捉えられない原理的な問題等、理科の学力の土台のようなものについて、剥落している。

学力の剝落現象について

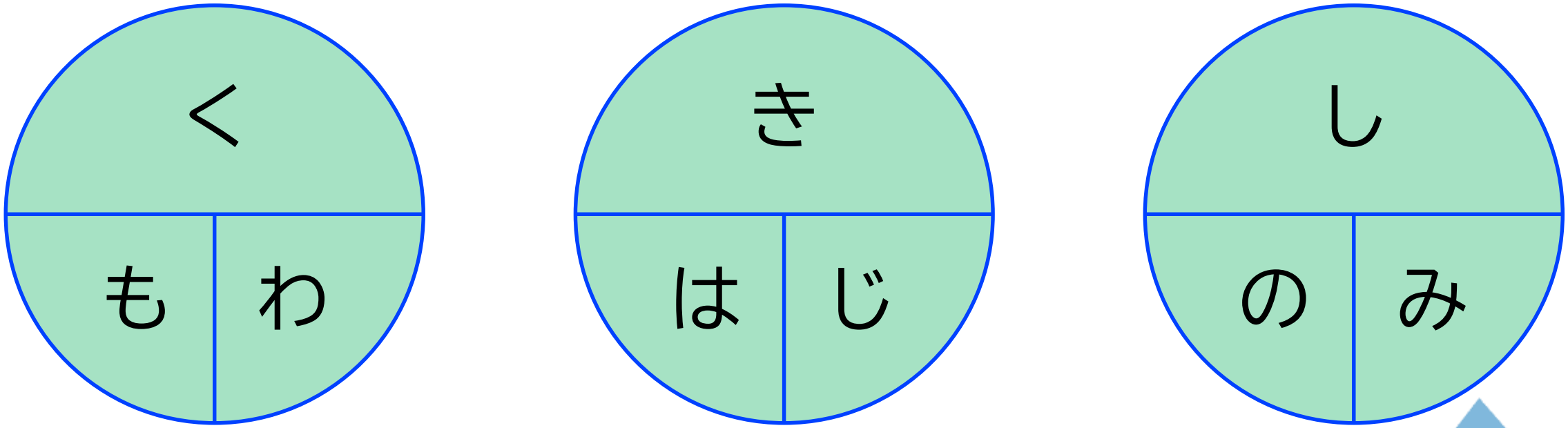
◆ 総括

- 壮丁の学力は、その半ば以上のものが小学校四年程度のところにとどまっている。
- 学力として残っているものは、日常の生活の必要から反復利用されるものに限られる。
- 四則計算以外は、全てといってよいほど経験的なものをもってしか生活していないのが大衆の数学の学力である。
- 国語の学力などは、この点が一層はっきりあらわれている。
- 理科に至っては、全く学力として身につく余地もないといってよいほど惨たんたる成績に終わっている。

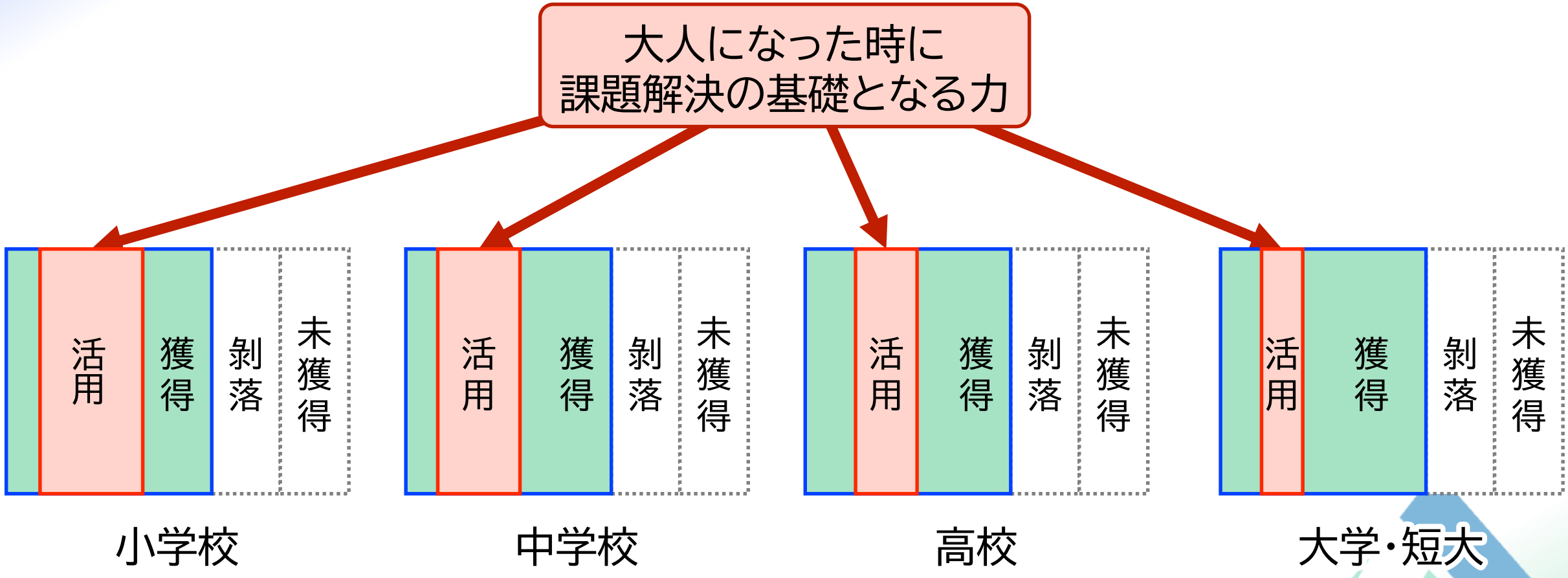
学力の剥落現象について

- 分数の計算ができない大学生
- 小数の計算ができない大学生
- 「%」の理解ができない大学生

学力の剝落現象について



学力の剝落現象について

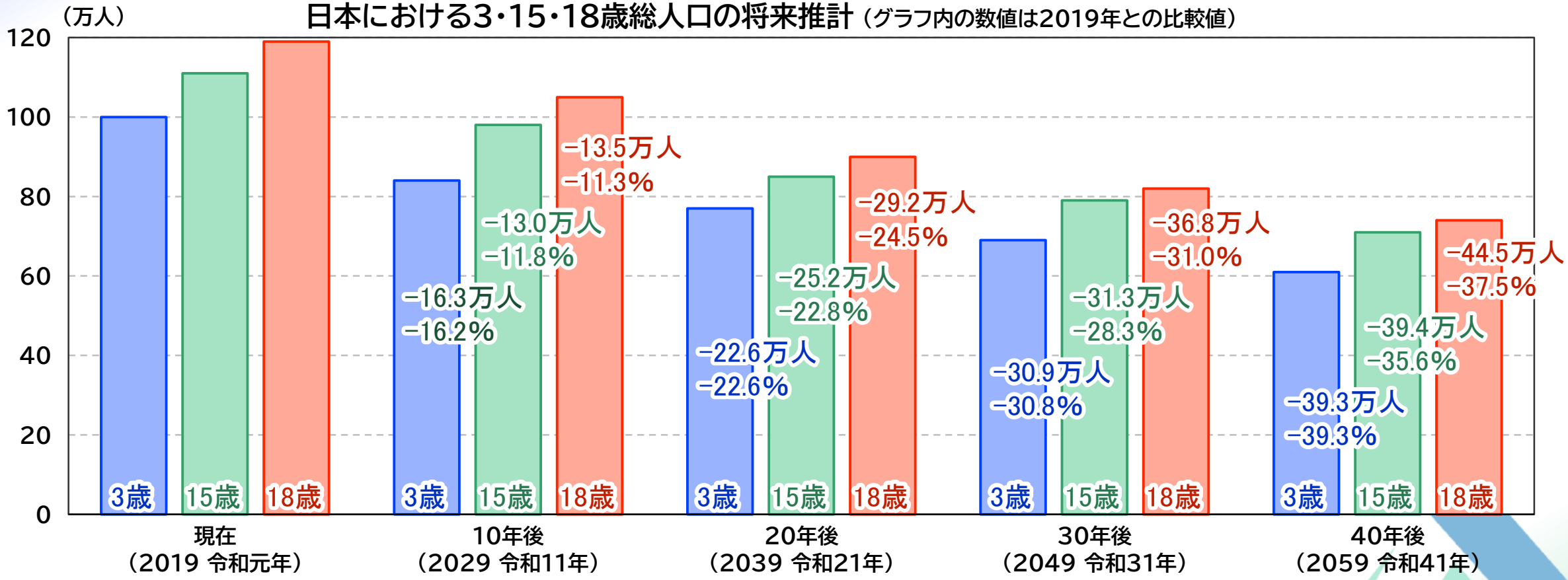


教育上の課題

- 獲得率における課題
  - 知識・技術を持っているだけでは、教育とは言えない時代になった。
  - 誰にでも分かりやすく獲得させることのできる教育力が不可欠である。
  - そのためには、教育内容と教育方法に関する研究活動が不可欠である。
- 剥落率における課題
  - 「学校は学校、社会は社会」という時代は終わった。
  - 学校で学んだことが社会で役に立つことが教育をする上で不可欠である。
  - そのためには、教育内容と教育方法に関する研究活動が不可欠である。
- 活用率における課題
  - 知識・技術を獲得させるだけでは、教育として不十分である。
  - 獲得した知識・技術を活用して問題解決できるところまで教えることが不可欠である。
  - そのためには、教育内容と教育方法に関する研究活動が不可欠である。

若者のドロップアウト

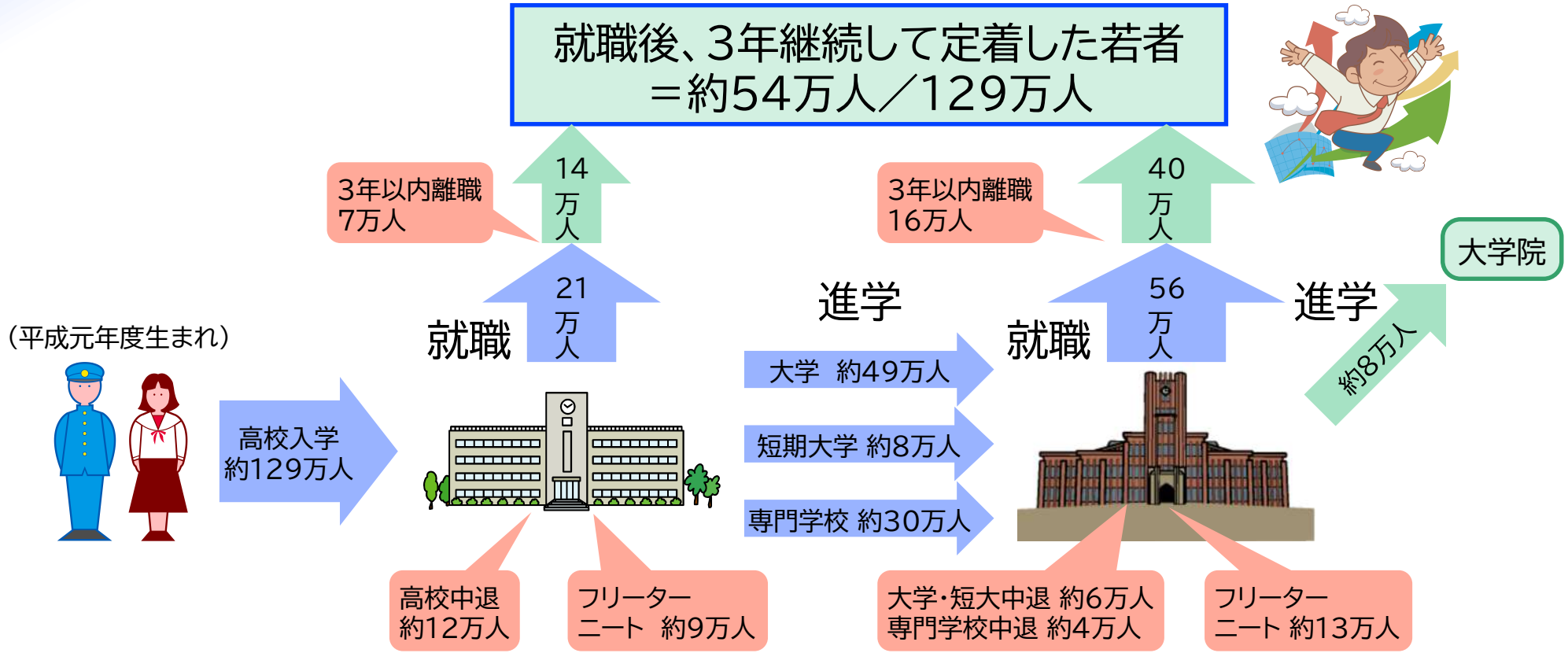
若者のドロップアウト



※ 2019（令和元）年は、総務省統計局『人口推計』における「年齢各歳別総人口（10月1日現在）」より。2029（令和11）年以降は、国立社会保障・人口問題研究所発行『日本の将来推計人口（平成29年推計）』における「年齢各歳別人口：出生中位（死亡中位）推計」より

若者のドロップアウト

全国



約67万人の若者が、一度は中退・離職を経験しながら、
そこからはい上がらなければならない状況にある。

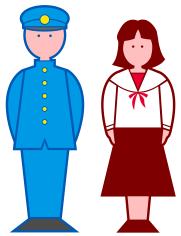
平成26年度調べ
学校基本調査結果等より

若者のドロップアウト

愛知県

すんなり就職して3年継続できる若者
＝約3．3万人／7万人

（平成元年度生まれ）



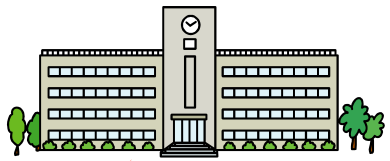
高校入学
約7万人

就職

1.5
万
人

1.2
万
人

3年以内離職
3千人



高校中退
約7千人

フリーター
ニート　約3千人

進学

大学　約3万人

短期大学 約5千人

専門学校 約1万人

就職

3
万
人

2.2
万
人

3年以内離職
8千人

大学・短大中退 約3千人
専門学校中退 約2千人

フリーター
ニート 約7千人

進学

約3千人

大学院

平成26年度調べ
学校基本調査結果等より

学習システム「学びの泉」

これまでの報告討論会

H22 教育にイノベーションを ～誰でも無限の可能性を持っている～

H23 教育にイノベーションを！ ～高大・高短教育連携～

H24 キャリア教育を問い直す －真の進路保障のために－

H25 教育にイノベーション！ －無限の可能性に挑戦－

H26 教育にイノベーション！ －3つの挑戦－ ～無限の可能性に挑戦する若者を育成する～

H27 「建学の精神」と「社会人基礎力」と「PISA型学力」を核にして「教育を再生する」

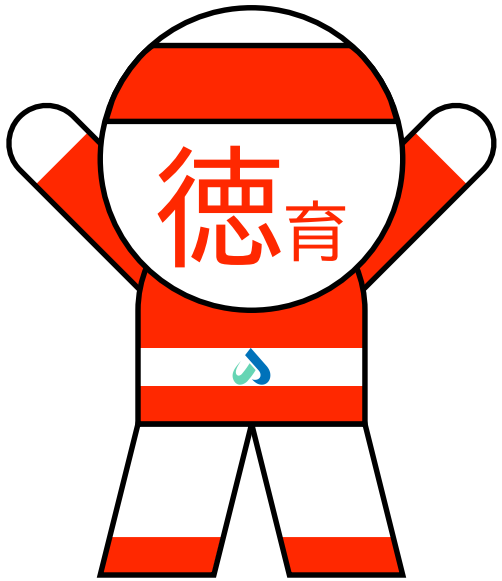
H28 建学の精神と社会人基礎力とpisa型学力を核にした教育で勝負できる学校を作る

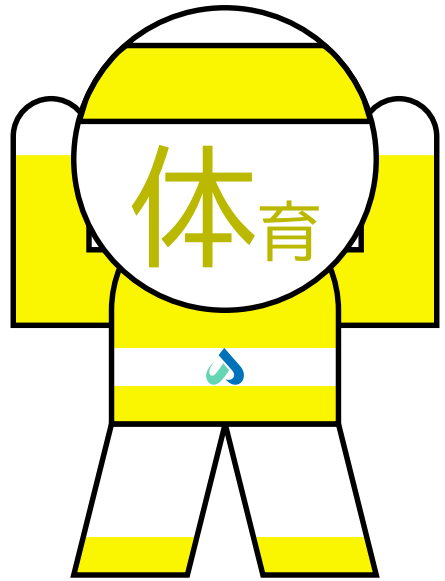
H29 教育の質で勝負できる学校を作る ～建学の精神と社会人基礎力とpisa型学力を核にして～

H30 高大教育連携の推進 －「智・徳・体・感・行」に基づいた自学・共学システムによる高大教育連携－

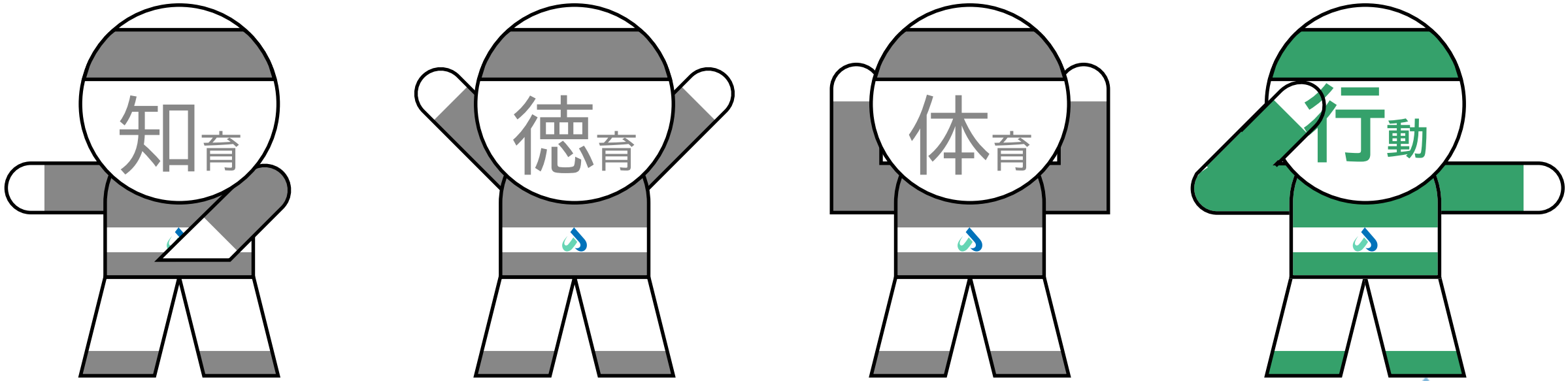
R01 3つの挑戦（苦手への挑戦・上達への挑戦・未知への挑戦）
－「智・徳・体・感・行」に基づいた自学・共学システム「学びの泉」の構築に向けて－

学習モデルの変遷

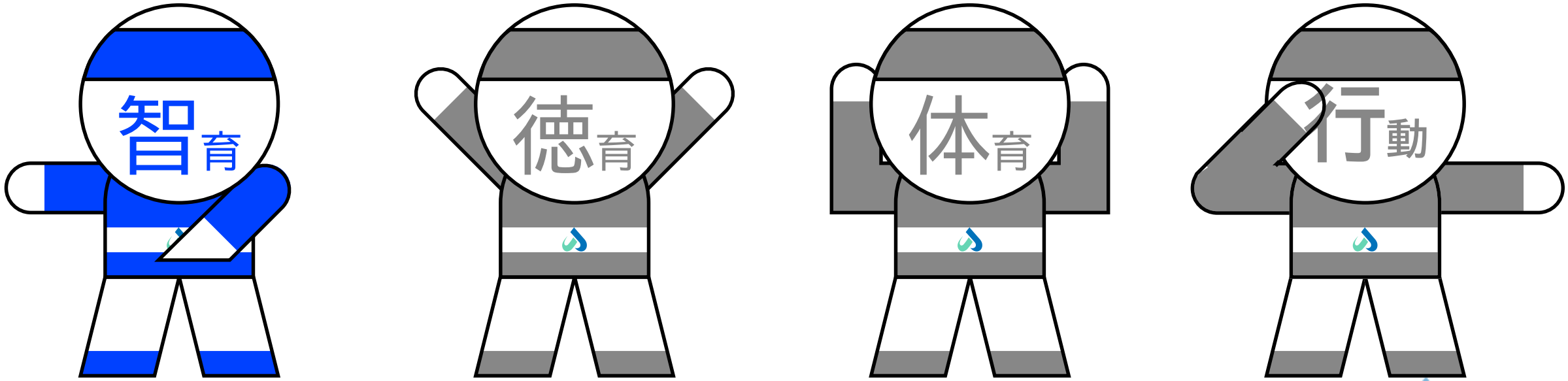




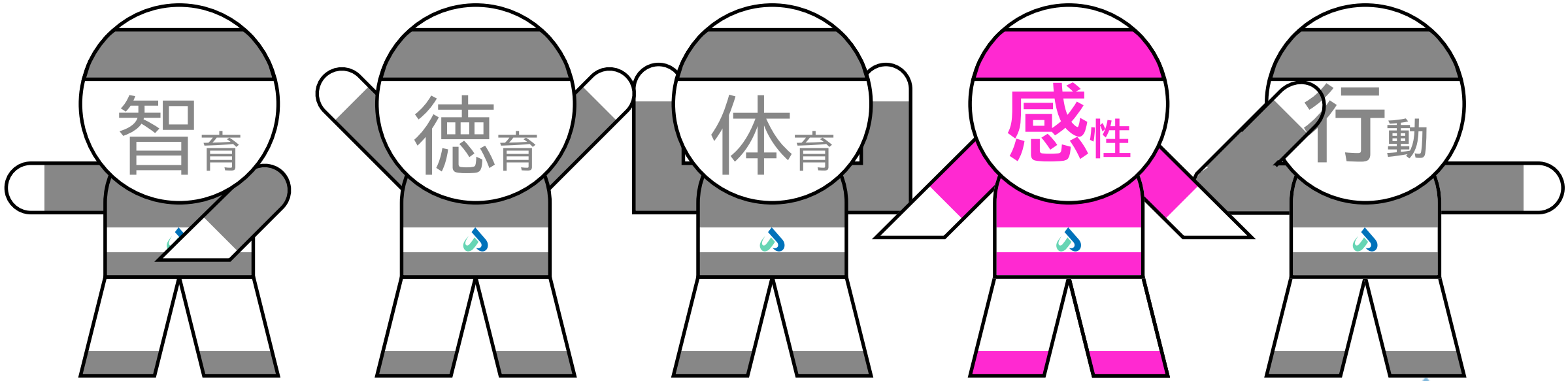
学習モデルの変遷



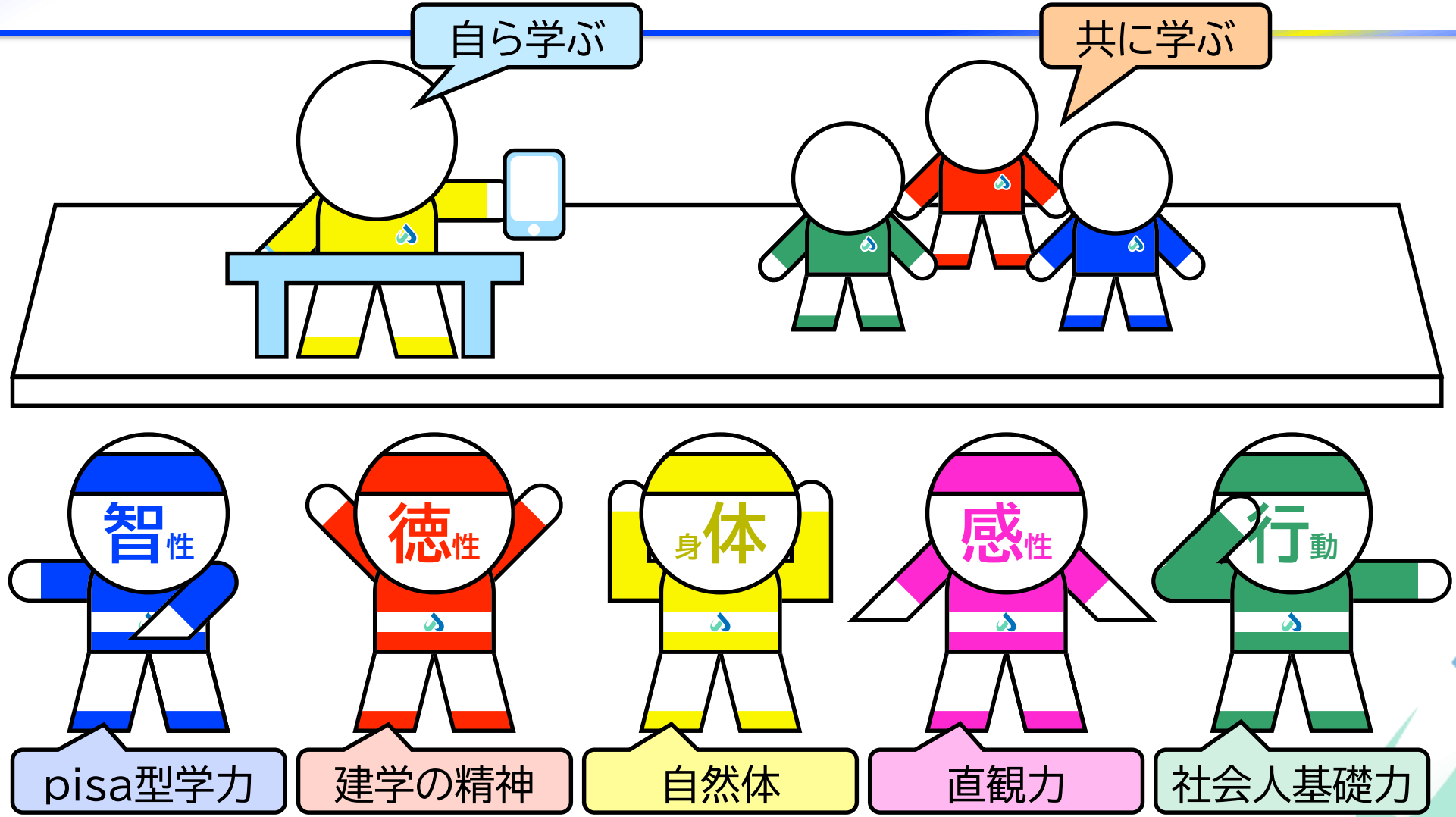
学習モデルの変遷



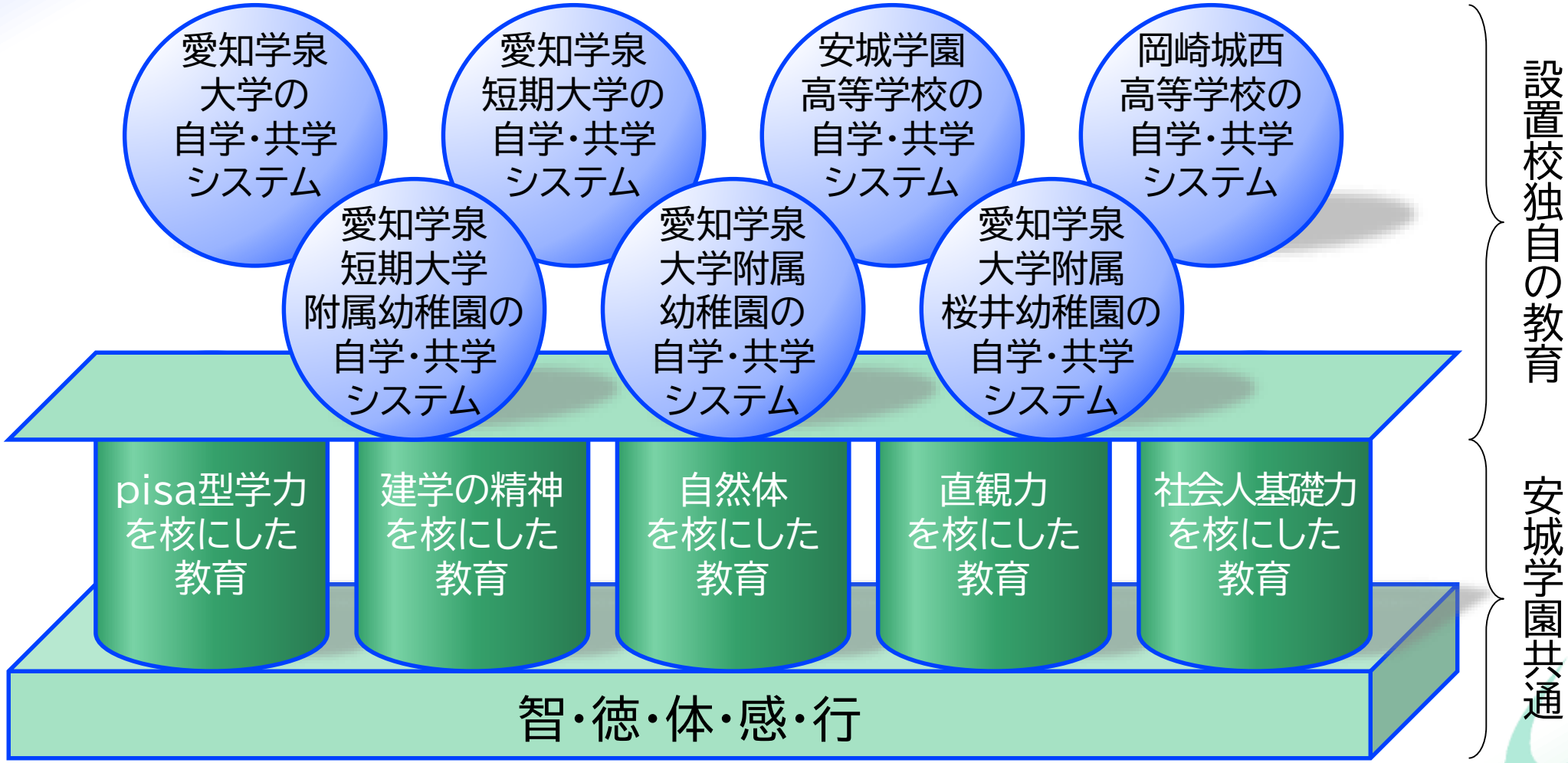
学習モデルの変遷



学習システム「学びの泉」



学習システム「学びの泉」


愛知学泉大学の自学・共学システム
愛知学泉短期大学の自学・共学システム
安城学園高等学校の自学・共学システム
岡崎城西高等学校の自学・共学システム
愛知学泉短期大学附属幼稚園の自学・共学システム
愛知学泉大学附属幼稚園の自学・共学システム
愛知学泉大学附属桜井幼稚園の自学・共学システム
pisa型学力を核にした教育
建学の精神を核にした教育
自然体を核にした教育
直観力を核にした教育
社会人基礎力を核にした教育
智・徳・体・感・行
設置校独自の教育
安城学園共通

「学びの泉」プログラム・シラバス・教材の開発・実践

- 「智」を鍛えるプログラム・シラバス・教材の開発・実践
  - pisa型学力を鍛えるプログラム・シラバス・教材の開発・実践
- 「徳」を鍛えるプログラム・シラバス・教材の開発・実践
  - 建学の精神を鍛えるプログラム・シラバス・教材の開発・実践
- 「行」を鍛えるプログラム・シラバス・教材の開発・実践
  - 社会人基礎力をプログラム・シラバス・教材の開発・実践

⋮

「学びの泉」プログラム・シラバス・教材の開発・実践

- 「智×行」を鍛えるプログラム・シラバス・教材の開発・実践
- 「智×徳」を鍛えるプログラム・シラバス・教材の開発・実践
- 「徳×行」を鍛えるプログラム・シラバス・教材の開発・実践

⋮

- 「智×徳×体」を鍛えるプログラム・シラバス・教材の開発・実践

⋮

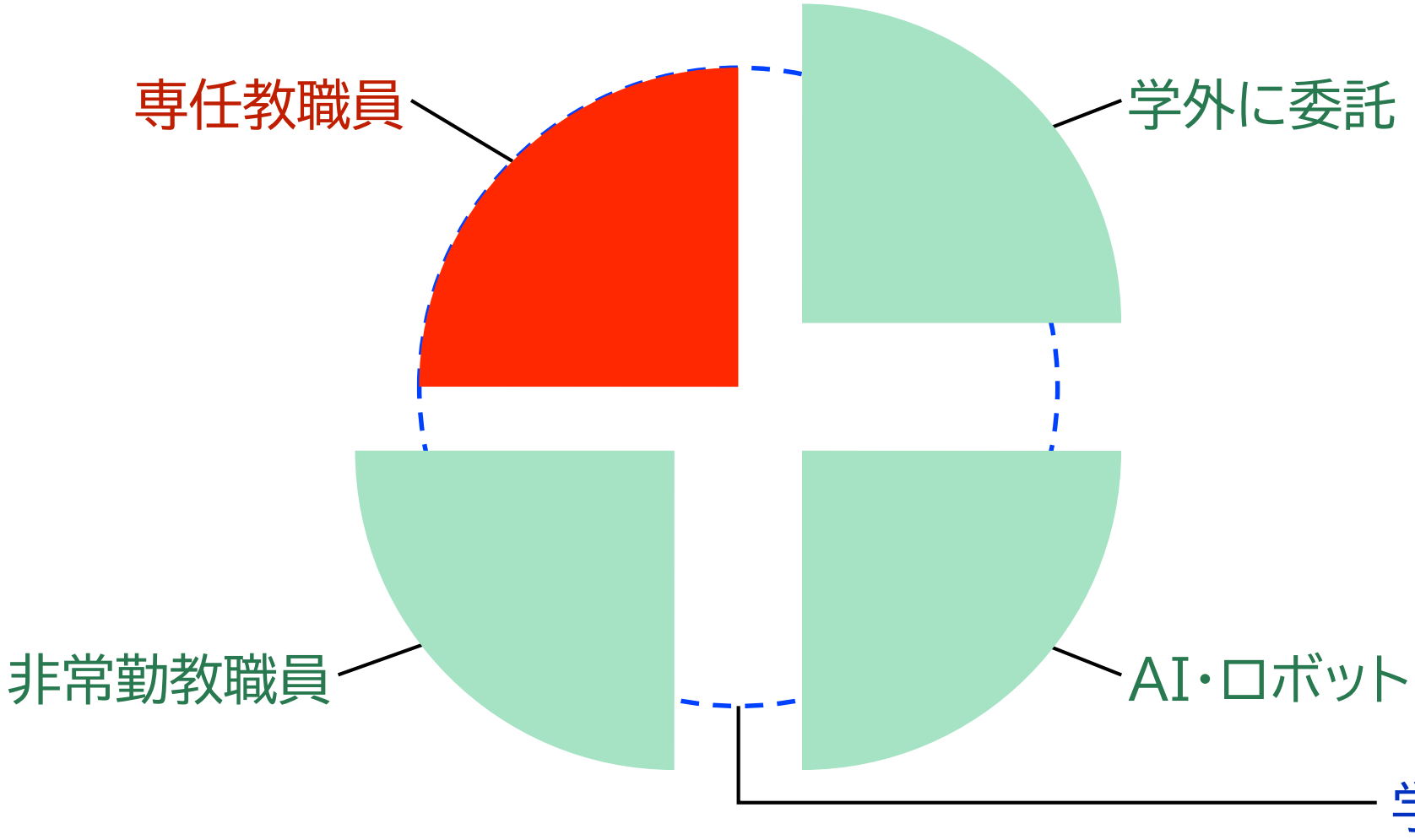
- 「智×徳×体×感×行」を鍛える……
  - 例えば、総合学習、産官学連携などのプロジェクト型学習など…

私たちの仕事

付加価値を生み出すために

選択と集中

専任教職員が取組む仕事



専任教職員が取組む仕事

◆寄附行為 第3条(目的)より

- 建学の理念と建学の精神と四大精神の実践を通して
- 経済的・政治的・文化的に自立できる社会人を育成することによって
- 地域と国際社会に貢献することである

差別化

専任教職員が取組む仕事

◆寄附行為 第4条(建学の理念)より

- 庶民性
- 先見性

差別化

専任教職員が取組む仕事

◆寄附行為 第5条(建学の精神)より

- 生命体構想
- 個人として自立しつつありとあらゆる生命体と共生することによって
- 生きる意志と生きる力と生きる歓びに満ち溢れた人生を送ること

差別化

安城学園専任教職員の仕事

◆寄附行為 第6条(主たる事業)より

- こどもの潜在能力開発事業
- おとなの潜在能力開発事業
- 地域の潜在能力開発事業

差別化

専任教職員が取組む仕事

◆寄附行為 第8条(行動指針)より

- 安城学園教職員憲章に従って行動する

差別化

- 教育基本法・学校教育法・私立学校法をはじめとする関係法令に従って行動する

標準化

安城学園専任教職員の仕事

◆寄附行為 第9条第1項(教育方針)より

- 「智・徳・体・感・行」に基づいた
- 学修(学習)システムと自学・共学システムを開発

差別化

今後の教育のために

Society5.0 新たな社会

◆ サイバー（仮想）空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。〔内閣府HPより〕

「4つのステージ」から「5つのステージ」へ

第五ステージ（物理的な空間を超えて）

今後の採用で求める教職員像

- 「安城学園教職員憲章」に基づいて業務を遂行すること
- 学習システム「学びの泉」用のプログラム・シラバス・教材を開発・実践すること
- 学習システム「学びの泉」で不可欠な自学自習用オンライン教材を開発すること
- 年齢性別に関わらず、「3つの挑戦（苦手・上達・未知）」と「3つの努力（獲得・活用・解決）」を行うこと
- 教職協同を推進すること

未知への挑戦（第三の挑戦）

ここまでのまとめ

前に踏み出す力

建学の精神の活用法

生きる意志
生きる力
生きる歓び

～とともに

＋

生きる意志
生きる力
生きる歓び

自己

他者

自立

共生

建学の精神の活用法

生きる意志
生きる力
生きる歓び

～とともに

＋

生きる意志
生きる力
生きる歓び

地域

地域とともに

国際社会

国際社会と
ともに

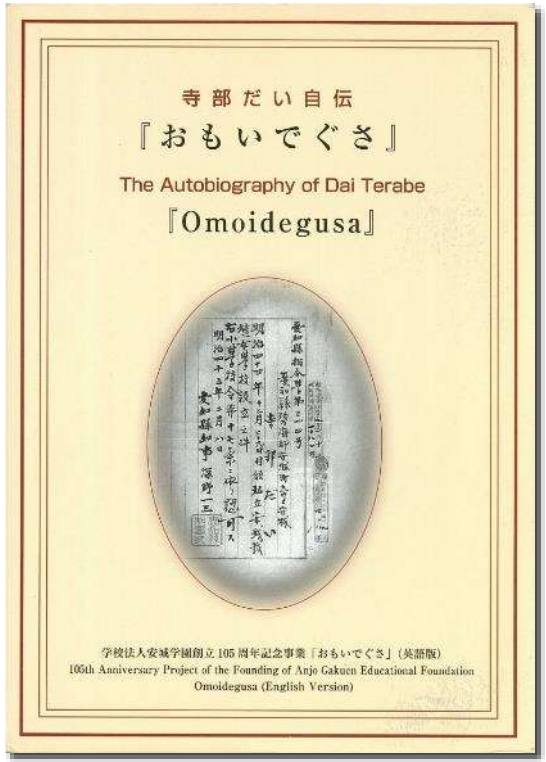
自然

自然とともに

地球

地球とともに

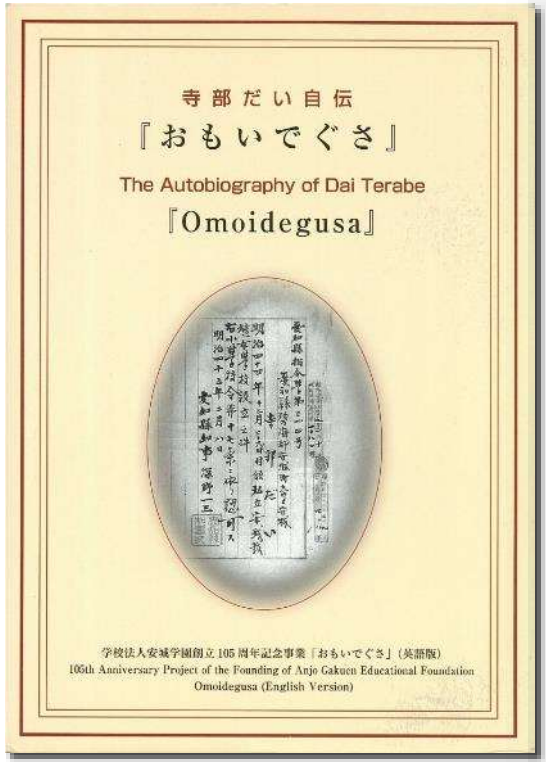
建学の精神の活用法



氏名	寺部だい	だい先生の頃(明治25年)の主な学校制度
母親の名前	寺部やつ	
父親の名前	？？？？	
生誕地	愛知県碧海郡桜井村	
生年月日	明治15年10月20日	
0歳	母親は生後15日に里子に出す決心をする。	
0~1歳		
1~2歳	(数え3歳頃)私を残して一人で出てゆくようになりました。	
2~3歳		
3~4歳	(数え5歳)母がいなくても、一日中、平気で近所の子供らと遊んでいられるようになりました。	(幼稚園)
4~5歳	(数え6歳)人気のない真暗な家は怖くて、近所の家の軒下に立っては、母の帰りを待ちわびました。	(幼稚園)
5~6歳	母は突然、善光寺参詣を思いたちました。私は学齢前の(数え)7歳で、村の小学校に入学することを許可されたのであります。	(幼稚園)
6~7歳		尋常小学校
7~8歳		尋常小学校
8~9歳	(数え10歳)私は母の指図通りに、小学校三年の10月、退学してしまいました。	尋常小学校
9~10歳	夜学に通い出したのは、(数え)11歳の時でした。	尋常小学校
10~11歳		高等小学校
11~12歳		高等小学校
12~13歳		尋常中学校 高等女学校
13~14歳	村のお寺へ、お針子として通うことになりました。	尋常中学校 高等女学校
14~15歳	(数え16歳)ある日、私はお寺のお針子仲間と、お昼の休みに、かくれんぼをして遊んでおりました。私の頭から、命と同じく大事な髪が消え去りました。	尋常中学校 高等女学校
15~16歳		尋常中学校 高等女学校
16~17歳	(数え)18歳に達しているとはいえ、小学校は三年足らず、漢学塾には七年も通ったが、学校のように、系統のある組織的な教育を受けていない。	尋常中学校 高等女学校
17~18歳	(数え19歳)受験してみましたが不合格になりました。	高等中学校 女子高等師範学校
18~19歳		高等中学校 女子高等師範学校
19~20歳	明治35年4月、私は渡辺裁縫女学校(現在の東京家政大学)に入学いたしました。	高等中学校 女子高等師範学校
20~21歳	前途に夢を描きながら、喜びに溢れて通学を続けていた時、突如、国元からかた一通の手紙は、私に大きな衝撃を与えました。	帝国大学 女子高等師範学校
21~22歳		帝国大学 —
22~23歳	明治38年11月、一応の目的を達して、高等科を卒業することができました。	帝国大学 —
23~24歳	ある人の御推薦で、滋賀県の石部実業補習女学校に、裁縫科教員として、赴任することになりました。月俸20円でした。	
24~25歳		
25~26歳		

氏名	
母親の名前	
父親の名前	
生誕地	
生年月日	
0歳	
0~1歳	
1~2歳	
2~3歳	
3~4歳	
4~5歳	
5~6歳	
6~7歳	
7~8歳	
8~9歳	
9~10歳	
10~11歳	
11~12歳	
12~13歳	
13~14歳	
14~15歳	
15~16歳	
16~17歳	
17~18歳	
18~19歳	
19~20歳	
20~21歳	
21~22歳	
22~23歳	
23~24歳	
24~25歳	

建学の精神の活用法



氏名	寺部だい
母親の名前	寺部やつ

氏名	
母親の名前	

第1段：「寺部だい自伝　おもいでぐさ」を四大精神の観点より深掘りしましょう。
（あなたが読み取った・感じた四大精神）
記述方法は、項目ごとに「No」をつけて、「箇条書き」、Noごとに「罫線」を入れてください。記入例【私の生い立ち】p.8～35

四大精神を感じる人・物事等を【　】記入

精神	No	p	ℓ	どんなこと、どんなところに四大精神を感じましたか。
真心	1	8	15	**【母へ】**母は今も、ありし日のままの姿で私の全身全霊の中に生きておられ、そのままの力で私の一挙一動をみまもっておられます。
	2			
	・			
努力	1	10	10	**【生活費を稼ぐ母】**乳呑児(ちのみご)を抱えては、働くにも仕事はない。しかし働かねばならない。結局、母は自分の着物を少しずつ、知人を頼って売り歩きました。
	2			
	・			
奉仕	1	19	1	**【母へ】**「勉強しよう。勉強して立派な人になることだ。それが母への一番の恩返しだ。」
	2			

社会人基礎力（経済産業省）

- 2006年に経済産業省が提唱
- 職場や地域社会で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力
- 3つの能力・12の能力要素で構成される

Action

Thinking

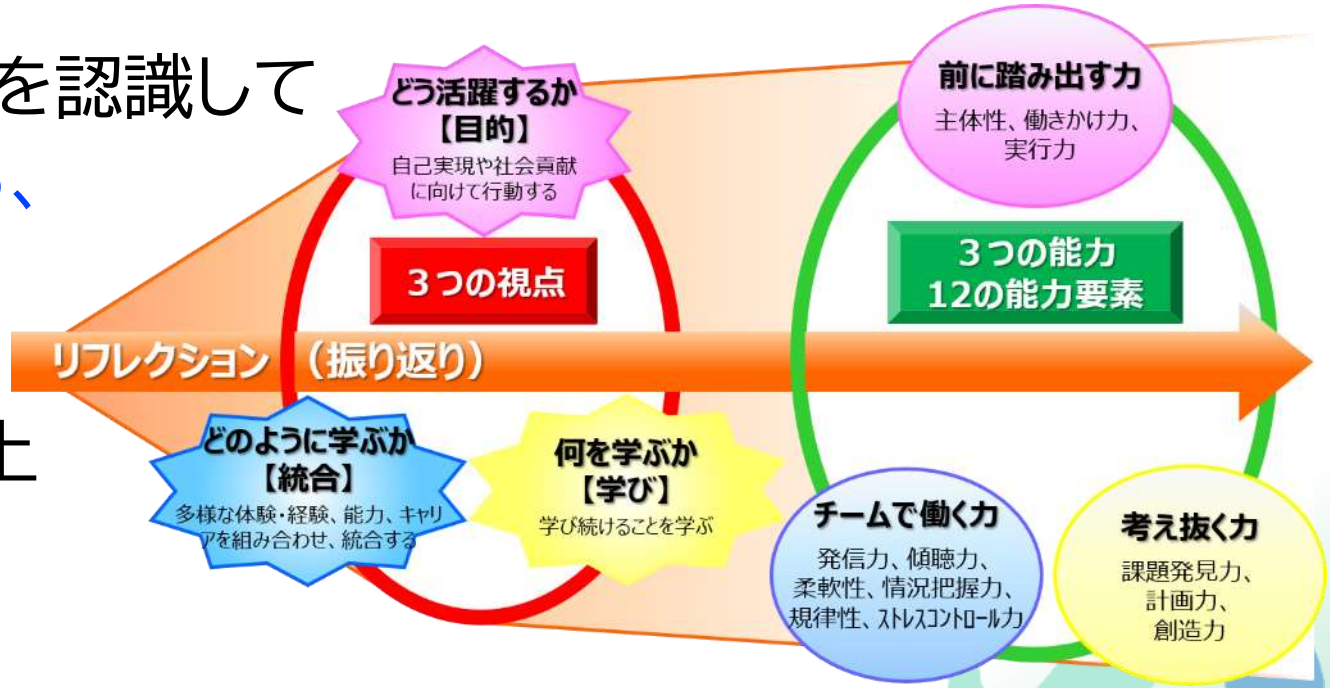
Teamwork

前に踏み出す力（Action）	考え抜く力（Thinking）	チームで働く力（Teamwork）	
● 主体性	● 課題発見力	● 発信力	● 情況把握力
● 働きかけ力	● 計画力	● 傾聴力	● 規律性
● 実行力	● 創造力	● 柔軟性	● ストレスコントロール力

人生100年時代の社会人基礎力

人生100年時代の社会人基礎力

- 2018年に経済産業省が再定義
- これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるための力
- 能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的・学び・統合（3つの視点）のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付け

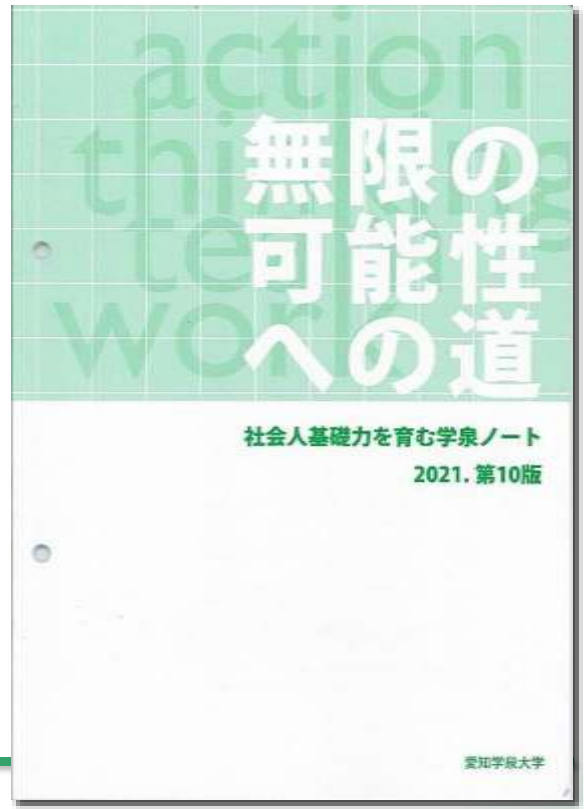


安城学園の社会人基礎力（課題解決型行動特性）

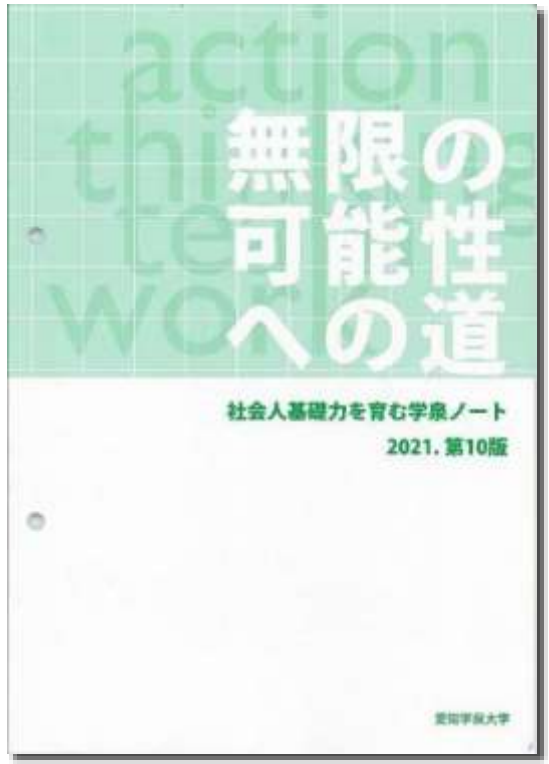
◆複数の人々がお互いに協力・協働して共通の課題等を解決していくに当たって、一人ひとりのメンバーに要求される3つの能力を統合した行動特性

- 前に踏み出す力
- 考え抜く力
- チームで働く力

→ 12の能力要素で構成



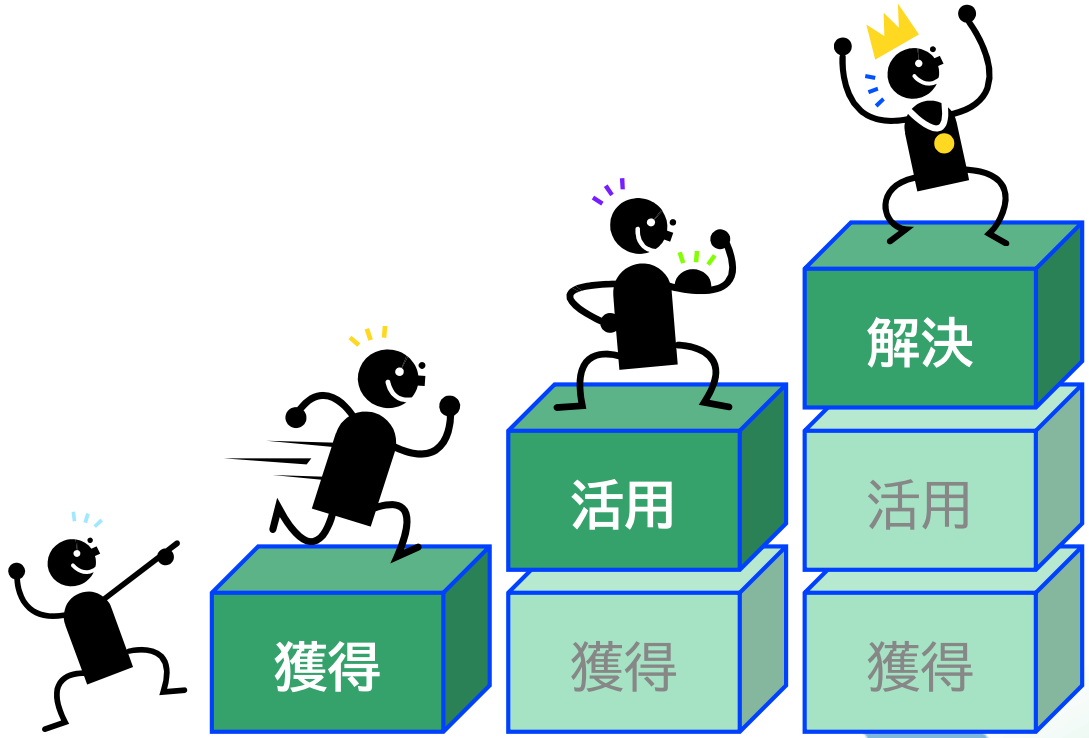
社会人基礎力の活用法


無限の可能性への道
社会人基礎力を育む学泉ノート
2021. 第10版

教育システム「学びの泉」
『智性・徳性・身体・感性・行動』を鍛える教育
学泉ノート
智性
pisa型学力
感性
直感力
徳性
建学の精神
身体
自然体
行動
社会人基礎力

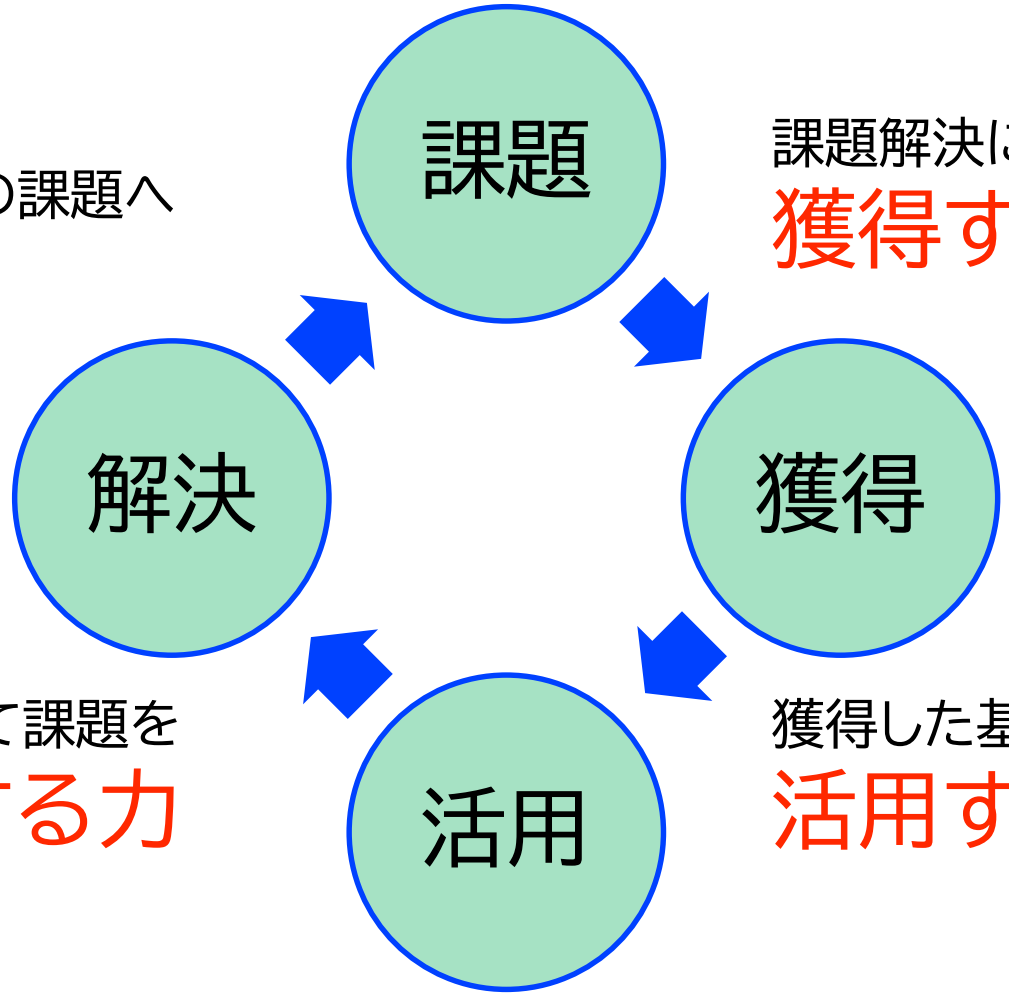
pisa型学力

「pisa型学力」とは、
3つの力（課題を解決するために必要な知識・情報等の資源を獲得する力、獲得した知識・情報等の資源を活用する力、獲得した知識・情報等の資源を活用して課題を解決する力）を統合した
課題解決型学力のことである。



pisa型学力

課題を解決して、次の課題へ

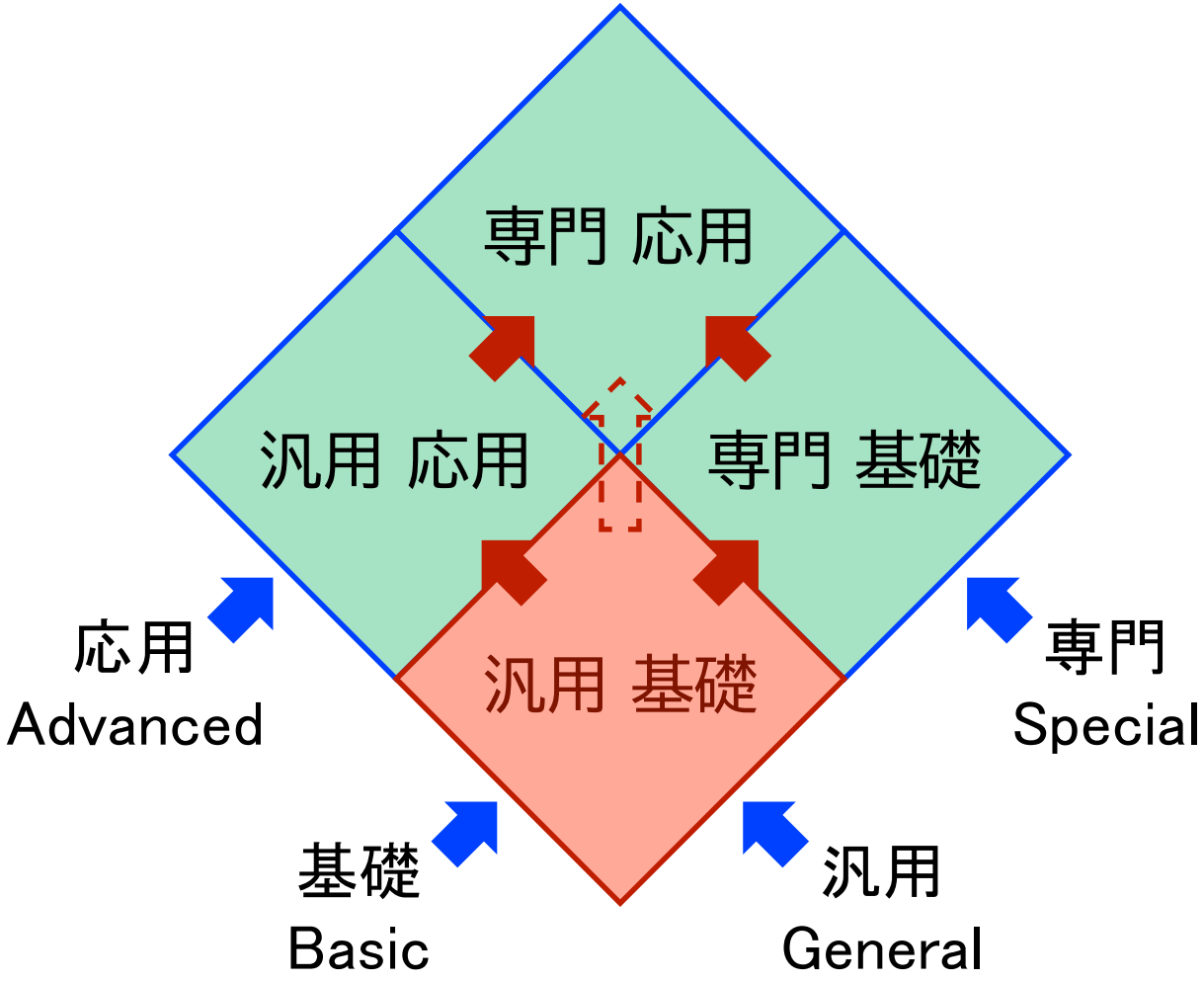


課題解決に必要な基礎的・汎用的能力を
獲得する力

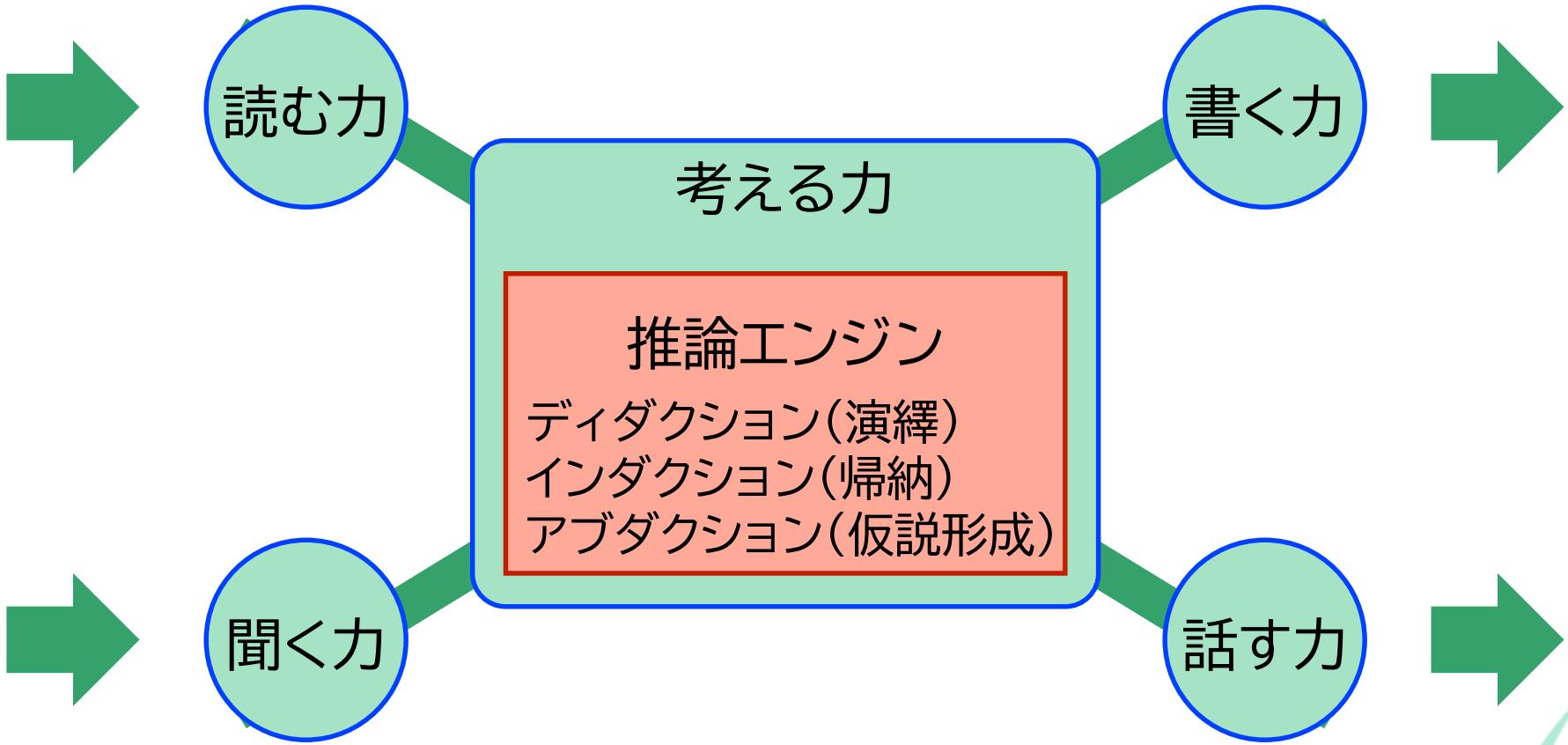
獲得した基礎的・汎用的能力を
活用する力

基礎的・汎用的能力を活用して課題を
解決する力

基礎的・汎用的能力


専門 応用
汎用 応用
専門 基礎
汎用 基礎
応用
Advanced
専門
Special
基礎
Basic
汎用
General

基礎的・汎用的能力の例


読む力
聞く力
考える力
推論エンジン
ディダクション（演繹）
インダクション（帰納）
アブダクション（仮説形成）
書く力
話す力

基礎的・汎用的能力の位置付け

◆「おとな」が「おとな」の役割を果たす上で不可欠なもの

⬇

◆未来の「おとな」である現在の「こども」にとって不可欠なもの

pisa型学力を引き出すために

When
（いつ）

Who
（だれが）

Why
（なぜ）

Where
（どこで）

What
（なにを）

How
（どのように）

pisa型学力を引き出すために

When
（いつ）

Who
（だれが）

Why
（なぜ）

Where
（どこで）

What
（なにを）

How
（どのように）

おわりに

潜在能力を壊さない教育

ご清聴

ありがとうございました